

「天気」に学生参加企画を

——支部持ち回りで学生座談会をやってみませんか——

一ノ瀬 俊 明*

先日「天気」のある若手編集委員の方が、「天気」誌上に若い人がもっと積極的に参加できるような企画をやりたい、と話しておられました。それに関しまして、早速ですが私のアイデアを提案してみたいと思います。

土木学会は、会員数28,000人(1986年7月)を数える大変大きな学会であり、うち10%近くを学生会員が占めています。私は1988年4月より会員となっていますが、学会発表をとりましても、学生が卒論や修論を発表する機会が多く、全講演中に占める学生発表の割合も、気象学会と比べかなり高いような気がします。(もっとも、理学部の気象関係で卒論を課すところといえば、地理学科くらいのものでしょうか。)

また、土木学会誌には「学生のこえ」という2~4Pのコーナーがあり、学生座談会ですとか、土木専攻学生意識調査アンケートの分析、大学毎の会員紹介等、学生の作るページが、毎月支部持ち回りの形式で連載されています。

土木学会の場合、正会員と学生会員という身分差?があり、学生会員単独では発表ができないようです。(講演規定に明文化されているわけではありませんが、そういう例は殆どありません。)一方、気象学会では、学生の会費は土木学会同様かなり安くなっていますが、正会員・学生会員の区別はありません。会員である以上、気象学会においては対等であり、お互いに尊重されなくてはならない、というのでしょう、

より民主的? な形態をとる気象学会よりも、土木学

会のほうが学生がのびのびとがんばっている、というのは、なんとなく不自然な気もします。

そこで提案ですが、「天気」誌上において、次のようなテーマで学生座談会を企画してみたいかでしょうか。

- (1) 参加者自己紹介・大学紹介.
- (2) 大学における気象教育について、カリキュラムに対する不満等、学生サイドの意見.
- (3) 気象学会の現状、特に若手参加の問題について、学会誌は自分の研究にとって為になっているか等.
- (4) (月並みですが)気象学の現状について、望まれる将来の方向について。(えらそうなこといってませんが、えらそうなこといえるのは学生の特権かもしれません。次世代の研究を担っていくのは、今学生をやっている連中ですし。)
- (5) 研究上の不安、就職問題の実態等.

(以上は、土木学会誌「学生のこえ」を参考に考えてみたのですが、実際にはここに挙げたような高尚な?話題にはなっていないようです。)

この企画は、できれば支部持ち回りの形式で定期的に(2~3カ月毎)に実施できればと思います。参加者にはいろいろな視点の人(女性と留学生は最低一人ずつ入れるとか)が入っているとおもしろいでしょう。特別、対談形式にこだわらなくてもいいと思います。当番地域毎の個性を生かして、交流と創造のページを作っていたきたいものです。

会員、特に若手会の皆様方のご意見をお待ちしております。

* Toshiaki Ichinose, 東京大学大学院工学系研究科.